

第5学年C組 家庭科学習指導案

授業者 佐々木 絵理子
研究協力者 堀江 さおり
教材分析協力者 西川 竜二

1 題材名 めざせ！快適LIFE ～着方を工夫して快適に過ごそう～

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは初めての家庭科学習に期待と意欲をもって取り組んでいる。現段階では家庭科の既習事項が少なく、実生活と学習を結び付けて捉えるには至っていない。衣生活についての事前調査では、衣服を購入する際に重視することとして、「形やデザイン」と答えた子どもが最も多く、次いで「自分では選ばない」と答えている。休日の日常着を自分で準備すると答えた子どもが服装を選択する理由としては、デザインが好き、かっこいいから、などが多かった。本校が制服であることについては「気持ちが引き締まる」「学校という場面に合う」という意見もある一方で3分の1の子どもが「洋服を選ばなくてもよい」と感じていることも分かった。本校は制服を着用しており、子ども自身がその日の気温や場面に合わせて衣服を選択する経験が少ない。このことから、子どもたちが衣服を選択する際には、形やデザインには着目しているものの、活動の目的や素材、機能性などの衣服の働きを考えるまでには至っていない。

(2) 題材について

本題材では、日常着の快適な着方や手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、工夫することができるという資質・能力を育むことを目指す。本題材では他人との意見の比較だけでなく、気象条件の違いによる比較、保健衛生上及び生活活動上の働きにおける比較の場を設定することで、比較対象をより明確にし、快適に着るとはどのようなことなのか根拠をもって判断することのできる授業展開を目指す。「あたたかい着方を考えよう」と「すずしい着方を考えよう」の二つの題材を合わせて扱うことで、異なる季節の着方を取り上げ、気象条件の違いによる衣服の違いを比較・検討するとともに、着方の工夫について考えることのできる題材構成とした。衣服の素材やボタン付けなどの手入れの仕方は、次の学習題材である「手ぬいで作ろう！小物作り」と学びをつないでいく。

(3) 指導について

導入では、自己の生活において解決すべき自分の課題を見いだすために、普段着用している制服や体育着、給食着などの衣服の形や素材に着目し、気付いたことや疑問を出し合いながら学習課題を設定する。気象条件の違い季節の夏服や冬服を比較し、「色」、「形」、「素材」「着ている枚数」や「通気性」などに着目することで、今までは自然と行っていた制服の着用が、科学的に理にかなっていることを検討する場を設ける。また、夏だから、暑いからという理由だけではなく、生活の場面や目的に合った衣服の着方があることに気付くことができるように、生活活動上の服装を比較し、「動きやすさ」「防水性」「清潔さ」「安全」などのものさしを働かせ、衣服の役割を知る学習活動を取り入れる。比較条件を制御することで、比較する対象を明確にし、生活に係る見方・考え方を働かせることにより「学びのものさし」を共有する。

さらに、科学的な見方を働かせるために被服実験を取り入れる。第3時には、重ね着による保温の効果、第4時には衣服の役割を知るために、肌着の必要性を確かめる被服実験を行う。導入で取り上げた日常着の着方や身近な衣服素材を実験材料とし、数値の測定や事象の観察を通して科学的な見方で捉えられるようにすることで、これまで何気なく感じていた快適さの要因である、「吸湿性」「吸水性」とった衣服の機能、布の素材がもつ性能、それらを着用する効果を「学びのものさし」として新たに獲得できるようにする。また、実験の様子を撮影したり、気付いたことや考えたことをワークシートに書き留めたりすることで、効果的な省察へとつなげていく。

第5時は、実験の結果を基に、快適な着方に必要な条件を選択する。快適かどうかを判断するには、単に涼しさや温かさを求めるだけではなく、活動の場所や目的、内容なども重要であると気付くことができるように、自分が普段着用している身近な衣服がどのような場面にふさわしいのかを考え、獲得した「学びのものさし」を用いて判断する活動を設定する。

本題材での実践的・体験的な学習活動を通して、実感を伴いながら、快適に過ごすための衣服の着方の工夫とその効果を理解することによって、学んだことを生かし自分で衣服を選んだり、着方を工夫したりする姿へとつなげていく。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方や手入れの必要、洗濯の仕方を理解し、適切にできる。 (B-16, B-17, B-19)
- (2) 日常着の快適な着方について、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、工夫することができる。 (B-18)
- (3) 日常着の快適な着方について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。 (ウ, オ, カ)

4 題材の構想 (総時数 6 時間)

やってみよう 家庭の仕事
 ・日常生活の中からの課題設定 ・日常着の着用 ・衣服の手入れ

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との 関連)
1	(1)身近な衣服について暑い季節と寒い季節の服装を比較し、気持ちよく生活したり、学習したりするために必要な条件を予想する。 ・暑い時は肌をおおわない形がいいかな。	・暑い季節と寒い季節の快適な着方の条件を引き出すために、気候や服装を想起させ、色や形、素材、枚数、通気性などについて話し合う場を設ける。	・日常生活の中から解決すべき問題を見だし、課題を設定しようとしている。 (オ)
2	(2)色や形、素材などの視点から衣服を観察し、場面に合った衣服の役割について知る。 ・運動する場合には布が伸び縮みすると活動しやすいね。	・場面に合った着方や働きに気付くように、制服、給食着や体育着などの身近な衣服を例に挙げ、動きやすさや清潔さ、安全性などについて比較・検討する場を設ける。	・衣服にはどのような働きがあるのかを理解している。 (B-17)
3	(3)実験をして、布の素材や重ね方による保温性の違いを確かめる。 ・枚数が同じでも素材が違えば保温性にも違いがありそうだ。	・重ねる素材や枚数、重ね方によって保温性に違いがあることを確かめることができるように、日常の着方を基にして実験方法を設定する。	・自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を見いだそうとしている。 (カ)
4 本 時	学習問題 暑い季節を快適に過ごすには、どのような着方をしたらよいのだろうか。		
5	(4)手袋実験を通して、肌着の働きについて知り、快適な着方について考える ・肌着を着ることにどんな働きがあるのだろうか。	・肌着の働きに気付くことができるように、手袋を用いて夏の湿度の高い状況を体験できるようにする。	・肌着の役割を理解し、快適な着方について考えをまとめている。 (B-17)
5	(5)実験結果をまとめ、自分で選択したお気に入りの衣服を持参し、着用するのにふさわしい場面を考える。 ・自分の選んだこの服は、こんな場面で着用するのがよさそうだ。	・快適な着方を多角的に捉え衣服の役割や条件についての考えを再構築できるように、意見交流の場を設ける。	・日常着の快適な着方について考えている。 (B-18)
6	(6)本題材の学びを振り返る。 ・その日の活動内容や気温に応じて、着方を工夫することで快適に生活することができることが分かった。 ・今までは決まった着方しかしていなかったけれど、より快適に過ごせるような着方をしていきたい。	・学んだ衣服の着方の工夫を振り返り今後の生活につなげることができるように、これまでの着方や衣服の選び方に、理由や改善点を加える場を設ける。	・衣服の働きや手入れの仕方が分かり、快適な着方について自分の生活と結び付けて考えている。 (カ, B-16, 17, 18)

◎本題材で育む主な資質・能力

日常着の快適な着方や手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、工夫することができる。(B-18, カ)

すずしく快適に過ごす住まい方 住まいの主な働きや季節の変化に合わせた住まい方を考える。
 気温や季節の変化や生活場面に応じた衣服の着方を考える。

5 本時の実際（4／6）

(1) ねらい 暑い季節に肌着を着る必要性を確かめる被服実験を通して、肌着の働きや快適な着方について理解することができる。 (B-17)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
5分	<p>① 前時の実験結果を振り返り、学習課題を確認する。 <予想される子どもの反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏は汗をたくさんかいて服が濡れてしまうことがある。 ・暑いだけでなくじめじめする感じがする。 <p>学習課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">暑い季節を快適に過ごすには、どのような着方をしたらよいのだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の夏の様子を想起させ、気温だけでなく湿度も高い季節の生活上の問題を取り上げ、何に着目して実験を行うのかを意識できるようにする。
20分	<p>②肌着の働きを知るために、肌着のありなし実験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保温性の実験結果から、枚数を少なくする方が涼しそうだから、肌着がない方が快適に感じるのではないかな。 ・普段肌着を身に付けている時には汗でべたつくことが少ない気がする。 ・肌着を着ないで1枚だけ着ていることもよくあるよ。 ・綿の手袋（肌着）をしている方があたたかく感じるよ。 ・指の間の汗が乾かないからじとじとする。 ・手袋をしている方が温かく感じるけれど、快適なのはどちらと言えるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手袋の素材や重ね方を変える実験を行うことで、湿度の高い暑い季節を手袋内で再現し、肌着を着る効果について確かめる場を設ける。 ・自分の快適さをグラフ化できるワークシートを準備し、実験途中、実験後に感じた快適さを、手袋の内側の様子とともに記録させ、視覚化することで省察に生かすことができるようにする。 ○実験結果を比較し、「温かい」「汗を吸う」「べたつかない」などの肌着の機能や素材の性能、肌着を着ることによる効果に着目してまとめ、個人の感覚だけに止まることがないように一般化を図る。
20分	<p>③実験結果を検討し、深まった考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの服装比べや実験から、枚数を少なくすることが涼しく過ごすことだと思っていたけれど、快適に過ごすことを考えるとしっかりと汗を吸ってくれる肌着を着ることも条件になると思った。 ・実験をしてみて短い時間でもじめじめしていたので、一日中同じ服を着ていることを考えると、肌着を着たりすぐに乾いたりすることも、快適な着方になると思った。 	<p>○暑い夏を快適に過ごす着方について、「吸水性」「吸湿性」「速乾性」などの新たな視点（学びのものさし）を基に考えられるように、考えを文章化する前に、何に着目して判断したのかを意見交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの視点だけでなく、快適さの要因の視点をを用いて着方を考えているまとめを取り上げ共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>肌着の働きを理解し、快適な着方について考えをまとめている。</p> <p style="text-align: right;">(B-17) (発言・シート)</p> </div>